

環境省・オフセット・クレジット(J-VER)認証運営委員会 御中
(事務局:気候変動対策認証センター)

平成 23 年1 月28 日

温室効果ガス排出削減・吸収量認証依頼書

オフセット・クレジット(J-VER)制度における検証が終了しましたので、利用約款記載のダブルカウントを回避するための措置を適切に執り行うことを誓約のうえ、下記の温室効果ガス排出削減・吸収量の認証を依頼いたします。

プロジェクト名				
東京大学千葉演習林間伐推進プロジェクト ～東京大学サステナブルキャンパスプロジェクト～				
【依頼者】 プロジェクト代表事業者				
事業者名(フリガナ)	国立大学法人 東京大学(コクリツダイガクホウジン トウキョウダイガク)			
住所	東京都文京区本郷 7-3-1			
代表者氏名	濱田純一	代表者役職		総長
担当者氏名	迫田一昭	担当者 所属部署・役職		TSCP 室 室長補佐
担当者 E-mail	sakoda.kazuaki@mail.u-tokyo.ac.jp	担当者電話番号	03-5841-0500	
プロジェクト事業者・プロジェクト参加者				
プロジェクト事業者名	東京大学 大学院農学生命科学研究科 附属演習林 千葉演習林			
プロジェクト参加者名				
オフセット・クレジット(J-VER)取得予定者				
事業者名(フリガナ)	国立大学法人 東京大学(コクリツダイガクホウジン トウキョウダイガク)			
	以下のうち当てはまる項目に☑ <input checked="" type="checkbox"/> 本プロジェクトのプロジェクト代表事業者である。 <input type="checkbox"/> 本プロジェクトのプロジェクト事業者である。 <input type="checkbox"/> 本プロジェクトのプロジェクト参加者である。			
妥当性確認・検証機関				
妥当性確認機関名	SGS ジャパン株式会社			
検証機関名	SGS ジャパン株式会社			

プロジェクト情報	
プロジェクト登録番号 (4 ケタ)	0045
プロジェクト登録日	平成 22 年 11 月 15 日
プロジェクト概要 ¹	<p>【プロジェクトの目的・内容】</p> <p>(目的) 大学演習林の間伐事業により CO2 クレジットを獲得し、大学全体の CO2 排出量をオフセットすることである。</p> <p>(内容) プロジェクト事業者である東京大学千葉演習林が、2007 年～2012 年度に間伐を実施した林分における、2008～2012 年度の CO2 吸収量をクレジットとして申請するものである。2007～2009 年度については間伐を実施済みで、面積、吸収量等は実測にもとづく値を申請する。2010～2012 年度については森林施業計画の間伐計画に沿って暫定値を申請するもので、面積は GIS による計算、吸収量は地位を仮定した計算にそれぞれもとづく。</p> <p>【適格性基準との整合性】</p> <p>対象地は森林法第 5 条に定める森林で、森林施業計画対象林である。モニタリング・検証にあたっては森林施業計画全体の伐採届・造林届を提出し、間伐は市町村森林整備計画に定められた方法に従う。</p> <p>【法令遵守状況】</p> <p>森林・林業基本法、森林法、及び森林の間伐等の実施の促進に関する特別措置法(間伐等促進法)に該当するが遵守している。</p> <p>【採用技術】</p> <p>面積測量機(Hemisphere 他)、樹高測定器(Haglof)、胸高直径測定器(Haglof)を使用し、間伐予定地の林分面積計算は ESRI 社製 ArcGIS9.2 を使用。</p> <p>【モニタリング方法】</p> <p>J-VÉR制度モニタリング方法ガイドラインのモニタリングパターンに基づき、活動量は、各モニタリングポイントに応じ、森林GISによる計算及び実測を行うことにより特定する。拡大係数は、「京都議定書3条3及び4の下でのLULUCF活動の補足情報に関する報告」で示された樹種別の拡大係数、枝根率、容積密度を使用する。収穫予想表は、千葉県収穫予想表のスギ(実生)とヒノキを使用する。また、ガイドラインに従いモニタリングプロットを設置し、的確にモニタリングを実施する。</p> <p>【GHG 算定式の方法論への準拠性】</p> <p>ガイドラインに全て準拠した算定式を採用している。</p> <p>【モニタリング体制】</p> <p>東京大学林長を責任者として、データ収集・管理は東京大学千葉演習林組織が担当するが、データ収集の一を部森林組合が担当し、データ編集・解析、クレジット計算については林長補佐がプロジェクト担当者として直接担当しまとめる。</p> <p>【QA / QC 体制】</p> <p>品質保証及び品質管理については東京大学千葉演習林組織が教育・研究の側面からも日常業務としての的確に対応している。また内部監査的に大学本部 TSCP 室が定期的に確認をする。</p>

¹ プロジェクト概要はプロジェクトの目的・内容の他、適格性基準との整合性・法令遵守状況・採用技術・モニタリング方法・GHG 算定式の方法論への準拠性・モニタリング体制・QA / QC 体制等に関することを3ページ以内で具体的に記述してください。登録時から変更がなければ登録時と同内容を、登録時から変更がある場合は相違点を具体的に記述してください。

モニタリング結果概要 ²		<input checked="" type="checkbox"/> プロジェクト計画に基づきプロジェクトを実施した。 <input checked="" type="checkbox"/> モニタリング計画書に基づきモニタリングを実施した。 <input checked="" type="checkbox"/> モニタリング方法ガイドライン・方法論に準拠した GHG 算定を行った。 (その他特筆すべき事項)					
適用モニタリング方法 ガイドライン		オフセット・クレジット(J-VER)制度モニタリング方法ガイドライン (森林管理 プロジェクト用) ver.1.6					
適用方法論		方法論番号	JRAM 001 ver 3.0.				
		方法論名称	森林経営活動による CO2 吸収量の増大(間伐促進型プロジェクト)に関する方法論				
モニタリング結果							
モニタリング期間		2008 年 4 月 1 日～ 2010 年 8 月 31 日					
<方法論R001・R003のみ> モニタリング対象面積		25.32ha					
排出削減・ 吸収量	年度	2008	2009	2010	2011	2012	合計
	t-CO ₂ ³	145	250	99	—	—	495
認証依頼削減・吸収量		495 t-CO ₂					

² モニタリング概要は、モニタリング方法において特筆すべき事項があれば記入してください。

³ 小数点以下は切り捨てとし、トン単位で記載してください。よって、小数点処理のため、表記上では単年度の削減量・吸収量の合計と、各年度合計量が異なることもあり得ます。

ダブルカウントの防止の措置			
ダブルカウントの防止の措置を講ずる事業者	国立大学法人 東京大学		
ダブルカウントの防止措置内容	<p>大学全体の CO2 削減自主目標達成のために使用し売却はしない予定である。また、大学全体の CO2 排出については、本部 TSCP 室が一元管理。</p> <p>【第三者に環境価値を移転する際のダブルカウントの防止措置】</p> <p>当該プロジェクトの対象となった森林を第三者に譲渡する際に、その譲渡先に対して環境価値はクレジット化されており、当該森林には付随していないこと、及び当該森林の所有権の帰属先と、環境価値の帰属先が異なることを明示する説明文書を作成して譲渡先に示します。あわせて、当該森林の譲渡の際には、オフセット・クレジット (J-VER) 制度利用約款森林管理プロジェクト特約の内容にも十分留意します。</p>		
公的な報告・公表制度 (判明している公的制 度)	省エネ法による第 1 種エネルギー管理指定工場としての定期報告 (温対法報告兼 ねる)		
自主的な報告・公表対 象 (対象となるホームペ ージ、環境報告書等)	東京大学環境報告書、東京大学ホームページ		
ダブルカウント防止措置責任者 (プロジェクト代表事業者と同様の場合は記載不要)			
事業者名			印
住所			
代表者氏名		代表者役職	
担当者氏名		担当者 所属部署・役職	
担当者 E-mail		担当者電話番号	
備考欄			

以 上